

**新型コロナウイルス対応緊急支援助成
事業計画（実行団体）**

事業名(主)	ポストコロナに向けた中心市街地活性化事業
事業名(副) <small>※任意</small>	新たな人の流れを創り にぎわい再生へ

入力数 主 20 字 副 18 字

実行団体名	一般社団法人八日市まちづくり公社
資金分配団体名	公益財団法人東近江三方よし基金

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域	分野
<input type="checkbox"/> 1) 子ども及び若者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
	<input type="checkbox"/> ②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	<input type="checkbox"/> ③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
<input type="checkbox"/> 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ④働くことが困難な人への支援
	<input type="checkbox"/> ⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
<input checked="" type="checkbox"/> 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/> ⑥地域の働く場づくりの支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	<input type="checkbox"/>	
------------------------	--------------------------	--

入力数 0 字

SDGsとの関連

ゴール
1. 貧困をなくそう
8. 働きがいも経済成長も
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
11. 住み続けられるまちづくりを

実施時期	2021年5月 ~ 2022年2月	事業対象地域	全国 <input type="checkbox"/> 特定地域 <input checked="" type="checkbox"/> 滋賀県東近江市)	事業対象者： (事業で直接介入する対象者と、その他最終受益者を含む)	コロナウイルス感染症の影響を受けた地域の人、働く人、学生、事業者など	事業対象者人数	8,200人
------	-------------------	--------	---	---------------------------------------	------------------------------------	---------	--------

I. 団体の社会的役割

(1)申請団体の目的
中心市街地活性化を推進するためには地域で主体的に活動する事業主体が不可欠である。当社はその役割を担うべく自らがまちづくりのプレーヤーとなって活動すると共に、まちづくりに関わる多様な事業者、団体、市民がビジョンに向かって進むための牽引役となることを使命に発足したまちづくり会社で、都市機能の向上と地域振興その他まちづくりのために必要な事業を行い、快適で個性豊かなまちづくりに寄与することを目的とする。
(2)申請団体の概要・事業内容等
当社は、市、商工会議所、商店街組合及び事業所等8名の社員で2016年4月1日に設立された。 主な事業は次のとおりである。 ・中心市街地の拠点施設整備及び運営 ・まちづくりに関する企画、調査及び情報提供 ・商店及び商店街の支援 ・不動産活用事業の実施（空家等マッチング、テナント運営） ・賑わい創出事業の実施（イベント開催、マップ作成） ・まちづくり人材との交流及び連携 ・地域ブランド商品の製造販売

入力数 (1) 199 字 (2) 200 字

II. 事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題
当社は、2020年4月に八日市駅前の空家（以下、SATSUKI-ROという）に事務所を移転して、地域の状況を肌で感じることができる環境となった。コロナ禍以降、店舗の巡回訪問を実施する中で、第3波といわれる状況下において、滋賀県に緊急事態宣言が発令していた時期よりもさらに飲食客や買物客が減り、地域経済が深刻化していることを実感した。（休業12、廃業4、第3波以降最低の売上を更新した店舗 1月2月巡回店舗の9割）その他、この地域には経済団体に加盟していない高齢の個人事業者が多くいて、様々な支援策があるにもかかわらず、情報弱者であることから、行政の支援が届かず苦しんでいることを把握した。これらのことが、地域の衰退を加速させている。 一方で、現状を把握するための通行量調査では、八日市駅前、学生やホテルの宿泊客等によりコロナ禍であっても活発な人の流れがあることを確認した。しかし、駅前に集まる人々も次のような課題を抱えていることがワークショップやSATSUKI-ROでの利用者アンケート等からわかった。 ・学生たちが交流や自習の場として利用していた商業施設の休憩スペースが使用できなくなり、居場所を失っている。 ・地域の人が交流の場として利用していた店舗がなくなり、居場所を失っている。 ・在宅ワークのできる環境が整っていない人が安心して働ける場所が見つからない。 ・活動する人が貸館などの使用ルールが厳格化され、自由に活動できる場所が見つからない。 ・事業者が危機管理対策として事務所を分散するための適当な物件が見つからない。 ・起業を考えている人が、リスクを恐れて躊躇している。 この2つの大きな課題を解決するためには、駅と商店街等をつなぐ玄関口に立地するSATSUKI-ROを活用して、駅前に集まる人々の課題を解決し、さらに地域へ誘導することが重要である。

入力数 796 字

III.事業内容

(1)事業の概要

本事業は、八日市駅前に位置し延命新地や本町商店街の玄関口であるSATSUKI-ROを活用し、ポストコロナに向けた人々の居場所と交流拠点の創設と商業振興のためのソフト事業を展開することにより、このエリアに新たな人の流れを生みだし、衰退した社会の再生を図ることを目的とする。
 そのために本事業では、SATSUKI-ROを活用し次の活動を行う。①仕事、勉強、趣味等の複合用途（コワーキングスペース、レンタルオフィス、レンタルスペース、レンタルキッチン）に利用できる施設改修。②施設の周知と利用拡大のための事業。③地域に人を誘導する事業。④取り残された既存店舗を応援する事業。⑤新規出店者を創出する事業。

入力数 298 字

(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態

- ・地域の人、働く人、学生、事業者などの居場所ができています。
- ・分野、世代が違う人が交流できる環境が整っている。
- ・口コミでSATSUKI-ROの周知と利用拡大が図られている。
- ・取り残されていた既存店舗が業態を見直し、時代の変化に対応できている。
- ・新たにまちづくりに挑戦する人が出てきている。
- ・交流によって新たなネットワークができています。
- ・新たな人の流れが生まれ、地域に活力が戻りつつある。

入力数 199 字

(3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
1. テレワークや学生の勉強等に対応できる コワーキングスペースがある。 2. オフィスの分散化、起業のスタートアップのための レンタルオフィスがある。 3. 趣味やワークショップ、会議、商談、会食等に利用 できるレンタルスペースがある。 4. 多くの市民、学生にSATSUKI-ROを広報す る。	1. 運営開始の公表 2. 貸出し開始の公表 3. 貸出し開始の公表 4. 番組の放送回数及び 授業でPRした学校数	1. 運営開始の公表実績 2. 貸出し開始の公表実績 3. 貸出し開始の公表実績 4. 実績のカウント	1. 運営開始 2. 貸出し開始 3. 貸出し開始 4. 2回及び2校	1. 2022年2月 2. 2022年2月 3. 2022年2月 4. 2022年1月

(4)活動

	時期
①【つくる】SATSUKI-ROを複合施設（ワーキングスペース、レンタルオフィス、レンタルスペース）に改修する。※レンタルキッチンは既存のまま利用	2021年6月～2021年12月
②【つくる】SATSUKI-RO利用者のコロナ感染防止対策（ガイドラインの作成、空調設備、アクリル板、消毒など）を実施する。	2021年6月～2021年12月
③【つくる】SATSUKI-ROの利用環境（ネットワーク環境、コピー機など）を整備する。	2021年6月～2021年12月
④【集める】商工会議所（八日市エリア対象）の「ようかいち起業塾」、湖東信用金庫の「ことしん経営塾」と連携し、 塾生に空店舗マッチングとSATSUKI-ROの周知と利用拡大を図る。	2021年10月～2022年2月
⑤【集める】地域イベントと連動して内覧会を開催しSATSUKI-ROの周知と利用拡大を図る。	2021年10月～2022年2月
⑥【集める】テレビ放送を利用してSATSUKI-ROの周知と利用拡大を図る。	2021年12月～2022年1月
⑦【集める】学校に働きかけ、学生にSATSUKI-ROの周知と利用拡大を図る。	2021年10月～2022年1月
⑧【誘導する】店舗と人の流れを誘導するための事業を一緒に考える。	2021年10月～2022年2月

IV.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	事業総括 黄地正治 ①②③担当 事務局 阪田洋一、中村真、早苗賢一郎（一級建築士） ④⑥⑦担当 事務局 阪田洋一、西村智己、飛川仁亨（八日市商工会議所） ⑤担当 事務局 西村智己、中村真
(2)他団体との連携体制	東近江市、八日市商工会議所、東近江市商工会、八日市商店街連盟、八日市商業開発協同組合、西友、たねや、平和堂、八日市ショッピングセンター協同組合、近江鉄道、湖東信用金庫、滋賀銀行、まちづくり協議会、東近江市観光協会、西日本旅客鉄道、びわこ学院大学、高校生記者、東近江市住まいるバンク、ルートインホテル、八日市駅前フードドライブスルー実行委員会など
(3)想定されるリスクと管理体制	コロナ感染防止対策の実施（ガイドラインの作成、空調設備、アクリル板、消毒など）

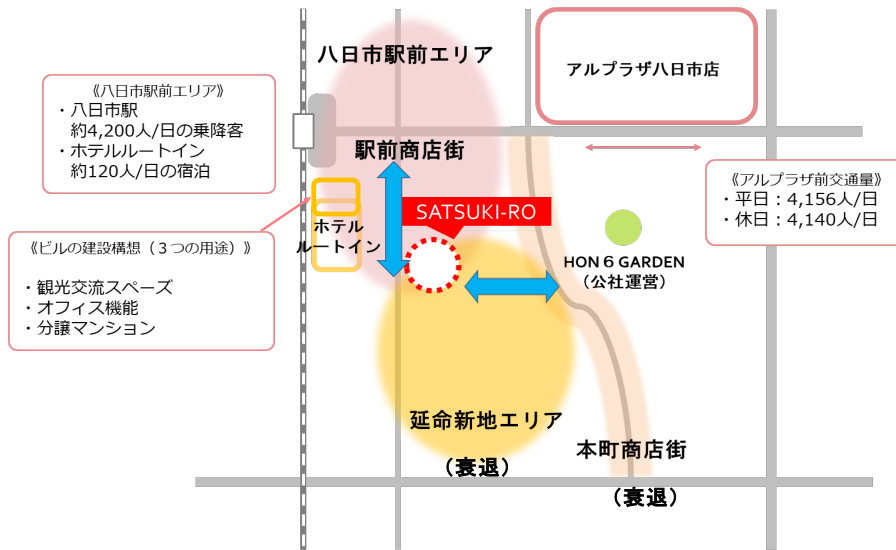
V.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無			
コロナウイルス感染症に係る事業			
①本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動を実施している(予定も含む)	有 <input type="checkbox"/>	無 <input checked="" type="checkbox"/>	有の場合 その詳細
②本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない	無 <input checked="" type="checkbox"/>	※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）	

(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績

- ・SATSUKI-ROを既存のまま貸し出し、ヒアリング及びアンケート調査を実施し、需要と課題を調査した。(利用件数：141回)
(利用用途：会議、不登校児の平日の居場所作り、ヨガ教室、成人式前撮り、食事会、子育て相談、クリスマスの写真撮影、写経など)
(評価された点) 立地、雰囲気、庭、広さなど
(課題点) 駐車場、トイレ、空調設備、WiFi環境(セキュリティ含む)、老朽化による安全面(床、壁、天井など)、防犯対策、照明設備、施設内の騒音など
(課題に対する対応) ・SATSUKI-ROの建物及び庭の一部を解体して、駐車場(8台分)の整備工事の実施
・SATSUKI-ROトイレ(2箇所)及びレンタルオフィス(1室)の改修工事の実施
- ・地域の店舗を巡回し、コロナ禍における商業活動への影響を調査すると共に各種支援策の紹介及び取り次ぎを行った。(160店舗、延べ521店舗)
- ・地域の課題と解決に向けたまち歩き及びワークショップの実施。(2回)(参加者：東近江市、八日市商工会議所、東近江市商工会、八日市商店街連盟、八日市商業開発協同組合、西友、たねや、平和堂、八日市ショッピングセンター協同組合、近江鉄道、湖東信用金庫、滋賀銀行、まちづくり協議会、東近江市観光協会、西日本旅客鉄道、びわこ学院大学など)
- ・通行量調査を5地点で実施。(八日市駅前広場前、ピアガーデン前、八日市図書館前、太子ホール前、東近江市役所前)
- ・びわこ学院大学の教員及び学生との意見交換会の実施。
- ・空家、空店舗マッチング事業。(過去5年間：マッチング約30件、内成立3件)
- ・Yokaichi Market(マルシェ)において、商店街の空家の内覧会を実施。
- ・中心市街地まちなか交流館「HON6 GARDEN」を運営することで地域の状況を把握。(飲食店3店舗、毎月1回のテナント会議)
- ・地域情報の収集と発信。(まちなか情報マップの作製、HP・SNSによるまちなか情報の発信)
- ・ルートインホテルと連携。宿泊客に対してSATSUKI-ROを会議室に使用できることを広報。(ルートインホテルは会議室がないため)

● SATSUKI-ROは、延命新地、本町商店街の玄関口に位置します。
この施設を活用し、八日市駅前エリアから新たな人の流れを生み出します。



SATSUKI-RO 改修工事計画

